

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	小原 明教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Akira Ohara
作成者（著者）	松裏, 裕行
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(1). p.5 5.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2019 054
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD26537711

小原 明教授送別の辞

松裏 裕行

東邦大学医学部小児科学講座（大森）教授

小原 明教授はご略歴にもありますように、昭和54年東邦大学医学部を卒業され、附属大森病院研修医を修了した後、学位取得・米国留学・大森病院輸血部長兼教授（病院）を経て平成24年8月に東邦大学医学部教授（小児科学講座主任）に就任されました。この間、当大学小児科学講座および輸血部の発展に邁進されて多大な功績を積み重ねられたのは皆様ご存じの通りです。特に当大学医学部における教育については、小児科学全般のみならずPOSシステム・血液病学・輸血学などを熱心に指導されたうえ、東邦大学医療短期大学兼担講師として看護学における医療教育にも力を注がれてまいりました。医学部運営については、高い人望を背景に請われて倫理委員会委員長・機構検討委員会委員長として活動し医学部機構改革、規約改正に取り組み体制改善に尽力されました。私が小原先生のご経歴の中でも特筆すべき点と考えていることの1つは、大森病院の副院長として3年・病院長として6年、計9年間に亘りバランス感覚と先見の明に裏打ちされた経営手腕を発揮したことです。私自身は9年間を通して病院長補佐として直接お手伝いする立場にありましたが、当院ひいては東邦大学が現在の安定した経営状態にある要因の1つは小原先生の功績と言っても過言ではないと信じています。一方、学会活動については日本小児科学会、日本血液学会、日本輸血細胞治療学会、東京小児がん研究グループ（TCCSG）をはじめ小児科ないし血液病学関連学会の会長など、重責ある役職や各種委員長などを歴任され、小児科学・血液病学の発展、後進の育成における実績は関係者が誰しも異口同音に讃えるところであります。

個人的には昭和60年に非常勤研究生として東邦大学第一小児科学教室、現在の小児科学講座（大森）、の門を叩いたのが小原先生との出会いの始まりでした。そのお人柄を

知るにつれ、外見だけでなく中身まで貴公子然とした姿に敬意の念を抱くまでに時間はかかりませんでしたが、最も驚嘆したのは小児科医としての実力差でした。小生が学生時代から小原先生にお会いするまでの数年間にいくつもの病院の様々な診療科でお世話になってきた先輩諸先生には、自他共に認める優秀な臨床医が数え切れないほど沢山いました。しかし、土田昌宏先生、佐地勉先生（故人）、橋口玲子先生などとともに当時私が憧れた小児科医の一人である小原先生が、私と僅か3年のキャリアの差であることを知った時の愕然とした思いは今も忘れません。医局内にあっては血液腫瘍グループを月本一郎先生の後を継いで率いただけでなく、良き臨床医として医局員に率先垂範して行動されていたと思います。私にとり最も学年が近い先輩として長らく教えを乞うただけでなく、医局長としても私の前任として完璧と思われる手本を示していただきました。また、短い間ではありましたが講師室で小原先生と文字通り机を並べた日々が懐しく、いろんな相談に乗っていただいたことも小生にとり掛け替えのない貴重な財産です。今回、その小原先生への送別の辞を認める役目を頂戴したのはこの上ない名誉と思う一方で、改めて小原先生の果たされた功績の大きさに思いを致し、小原先生の後を引き継いで小児科学講座を率いていく立場になる重責に圧倒されています。小原先生の医学部教員としての強い責任感と自負心に自然と尊敬の念が湧き上がると共に、何事にも俯瞰的な視野に立脚した長期的展望と計画的実行力は、小生が真似しようと努力しても真似できなかった素晴らしい能力と感じています。現役医局員・医局OBの諸先生とともに、衷心からの感謝と祝賀の気持ちを込めてお送りしたいと思います。長年にご指導を亘り、ありがとうございます。